



訪問診療科 医長
清水 裕智 (しみず ひろとも)

2000年 慶應義塾大学卒業
2010年 荻窪病院 外科医長
2017年4月より現職
日本外科学会所属

早期退院・早期回復支援のため 「急性期病院の訪問診療」に 取り組んでまいります

この度、急性期病院としての訪問診療科の立ち上げに踏み切りました。訪問診療科を立ち上げる目的は二つあります。

一つ目は病院の空きベッドを確保することです。

杉並区の推計人口は2017年4月現在で57万人、これに対する24時間救急医療機関は区内に7つあり、そのうち200床以上の病院は、河北総合病院(331床)と佼成病院(340床)と荻窪病院(252床)しかないのが現状です。2025年問題に向け、救急や急性期医療の需要は益々高まることは確実で、急性期病院における

1床あたりの回転率の向上は最重要課題となつております。対策として近隣の医療機関や施設との連携に取り組んでおりますが、季節

によつては地域全体が満床となつてしまうという現状があり、この状況は今後いつそう深刻な問題となつていくことが予想されます。訪問診療を行うことで、早期退院を支援し、病院の空きベッドを確保するというのが一つ目の目標です。

高齢になるほど、 長期入院はハイリスク

二つ目は、ご高齢の患者様に、住み慣れた環境で回復して頂くことにあります。

通常は、それぞれの疾患の急性期を過ぎ、回復期を越えるまで入院治療をしていることが多いかと思えます。しかし、ご高齢者の場合、入院による認知機能の低下が著しく、そのために睡眠薬を必要としたり、抑制をしなければならぬことが多々あります。さらには、それによる覚醒遅延を起こすことで、リハビリの遅れ、摂食障

急性期病院の訪問診療



害、誤嚥性肺炎と次々に余病を合併し、最終的に寝たきりになったり、認知症が進む、ということは少なからず経験します。そのため、むしろご高齢の方こそ、急性期を過ぎたら早くご自宅に戻り、ご家族の手をお借りしながら住み慣れた環境で回復して頂く、というものです。

今後も、地域の救急、急性期医療の拠点として、地域医療に貢献して参りますので、引き続きご指導ご鞭撻の程お願い申し上げます。

